

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>【スクールミッション】（社会的役割） 国際教育や実践的・体験的な教育を推進する普通科を設置する高校として、地域の関係機関と連携した授業や探究活動を通して、確かな学力を身に付け、持続可能な地域社会づくりを担う人材を育成する。</p> <p>【スクールポリシー】（三つの方針） 1 育成を目指す資質能力に関する方針 （このような力を育てます） ・生徒が、学びに向かう力と何ごとともあきらめず挑戦する態度を身に付けられるようにします。 ・生徒が、社会とつながる意欲と社会の中で自らを活かし社会に貢献できる知識や技能を身に付けられるようにします。 ・生徒が、積極的に人とつながろうとする人間性とそれを支えるコミュニケーション力を身に付けられるようにします。</p> <p>2 教育課程の編成及び実施に関する方針 （このような教育活動を行います） ・地域社会やコミュニティと主体的につながり、学校内外のリソースを活かす教育活動を推進します。 ・生徒が基礎・基本を確実に習得し、思考・判断・表現を繰り返す授業を実施します。 ・体験や対話を重視し、生徒がアクティブに学習する探究的な学びや選択科目の授業、国際性を磨く取組を実施します。 ・生徒が高校生活を豊かにし、一人ひとりの個性を磨く「私の+α」活動（部活動・学校行事等）を主体的に実施できるよう支援します。 ・夢や目標を見つけ実現できるように、生徒自身が主体的に進路を切り開くキャリア教育を推進します。</p> <p>3 入学者の受入れに関する方針 （このような生徒を待っています） ・自らの強みを生かして自分・学校・地域を良くしようという意欲にあふれた人を待っています。 ・バランスの取れた総合的な学力を高校入学後もいっそう伸ばそうとする意思を持った人を待っています。 ・多様性を受け入れ、自他の個性を尊重し、豊かな人間関係を築こうとする人を待っています。</p>	<p>【成果】 ○学習用端末を活用した授業が定着し、学習の個別最適化を図るとともに主体性のある学習活動を展開することができた。 ○進学指導では、模擬試験の事後指導や個別の添削指導を行うなど生徒の実態に即した指導を行うことで成果（国公立大学7名・公立短大3名合格）をあげることができた。また就職指導では、3年生を対象にインターンシップを企画実施したり、1・2年生対象に地域企業と連携した体験型のガイダンスを実施したりし、職業を知る機会を提供することで主体的にキャリアを形成していく力の基礎を養うことができた。 ○総合的な探究の時間において、1年生（マイガクⅠ）では、探究活動の基礎となる人間関係づくりを中心とした取組を行い、2年生（マイガクⅡ）では行政や地域企業等と連携した取組を実施することで、多様な視点で課題を自ら発見し、論理的思考や協働的な活動を基に、解決方法を地域・社会に発信できる生徒の育成の基礎を築くことができた。 ○学校設定科目では、地域との連携に留まらず積極的に京都府や舞鶴市、外部団体と連携した取組を行うことで特色ある教育活動を発信することができた。 ○教育相談会議ケース会議で生徒状況を共有し、指導することで入学した1年生が全員進級することができた。 ○生徒会活動や部活動では、生徒が主体的に取り組む姿勢が多く見られた。生徒会活動では教職員とのランチミーティングの取組を開始した。また、ボランティア部の「幼稚園等に絵本を贈る活動」が舞鶴市青少年善行表彰を受けた。</p> <p>【課題】 ○学習者としての目線を大切にした指導の継続とともに、学習習慣の定着を図るため、到達度テストの結果分析を全教職員で共有し、各教科での対応を検討する必要がある。 ○3年生の進学状況の成果を再確認し、模擬試験や検定試験を受験することの意味をさらに明確にした指導をする必要がある。 ○教職員全員体制で総合的な探究の時間に対して主体的に取り組む必要がある。 ○令和7年度はデジタル採点ソフト（採点ナビ）の活用が必須であるため、業務改善の取組を含め学校DX推進チームの在り方を充実させる必要がある。 ○生徒の主体的な活動は多かったが、生徒自身が企画運営する取組をさらに増やす必要がある。 ○在籍する生徒の実態を確実に把握し、学習指導・進路指導・生徒指導を一体的にとらえた支援体制・指導体制の構築を目指す。 ○探究活動（マイガク）や学校設定科目において、大学や研究機関との連携等に取り組むことで、生徒自身が自己有用感や将来への展望を明確にできるようにすることを目指す。 ○学校に対する地域の高い評価を得るために、諸活動を積極的に発信するとともに、その方法について検討改善を目指す。</p>	<p>【重点1】 生徒が主体的に学習し、進路を選択・実現する力を育成する (1)学習習慣の定着と学力向上のための、学習者目線を大切にした授業改善の実施 (2)探究的な学びの充実及び実社会と結びつけたキャリア教育の充実</p> <p>【重点2】 教育DXを推進する (1)ICTを活用した学校運営の改善及び働き方の改革 (2)ICTを活用した教育活動の充実のための教職員・生徒の資質の向上及び環境整備</p> <p>【重点3】 学校の強みを磨き、積極的・効果的にそれを発信する (1)地域の関係機関・団体・個人との協働による一歩踏み込んだ地域創生活動の実施 (2)生徒による情報発信や創造的活動・表現活動の機会の創出</p> <p>【重点4】 積極的な特別支援教育及び生徒指導・教育相談を推進する (1)配慮を要する生徒への個別指導・支援の充実 (2)生徒の主体性を育てる取組（部活動・学校行事等）の充実</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
重点1 生徒が主体的に学習し、進路を選択・実現する力を育成する	(1)学習習慣の定着と学力向上のための、学習者目線を大切にした授業改善の実施 A:3 B:10 C:0	○学習用端末等での課題配信や課題提出を積極的に利用し、学習者（生徒）が学習に取り組みやすい環境・時間を作る。 ○学習者（生徒）の諸課題を精選しながら、取り組む学習内容を焦点化し学習効率を向上させる。 ○学習サポート教室を継続的に実施し支援の必要な生徒の自立に向けてサポートする。 ○到達度テストの結果分析を全教職員で共有し、個別最適な学びと家庭での学習習慣の定着を図るため、運動課題配信等を有効活用する。 ○進学・就職に向けた意識を高める補講等を積極的に実施する。 ○模擬試験・検定等の意味を明確にし、受験を積極的に促す。また、模擬試験の結果分析を基に事後指導を確実に実行し、取組をより鮮明にすることで学習意欲の向上を図る。	B	【成果】 ●ICT活用による学習環境の向上 端末・ロイロノート・スタディサプリ等の活用が広がり、授業の可視化や振り返り、家庭学習の支援が進んだ。学習者目線の授業改善が全体として前進した。 ●個別支援体制の充実 サポート教室、補講、面談を継続的に実施し、生徒の学習・生活面の支援が強化された。教員間の情報共有も進み、支援の質が向上した。 ●模試・検定・進学指導による主体性の向上 模試や検定の受検促進、結果分析、面談を通じて、生徒が自分の課題や進路を主体的に考える姿勢が育った。進学・就職補講も進路意識向上に寄与した。 【課題】 ●学習習慣・意欲の二極化 課題配信や運動課題の仕組みは整うも、取り組みの差が大きく、学習習慣の定着には課題が残る。 ●ICT使用のばらつき 教科や生徒によって活用度に差があり、学習効果を高めるための活用方法の精選が必要。 ●個別支援の更なる深化 支援は継続できたものの、学力向上のためには、より個別の実態に応じた指導の工夫が求められる。 ●進路意識の全体的な底上げ 主体的に進路を考える生徒は増えたが、全体としては更なる意識付けが必要。
重点2 教育DXを推進する	(1)ICTを活用した学校運営の改善及び働き方の改革 A:5 B:8 C:0	○保護者等からの欠席連絡等、また保護者等への連絡など、アプリ（さくら連絡網）やTeams等をさらに有効活用し、効率化を図る。 ○Microsoft TeamsやFormsを活用し、個人情報を含まないことについては、積極的にデータ化し共有する。 ○学習支援アプリ（ロイロノート等）・デジタル教材及びデジタル採点ソフト（採点ナビ）を積極的に活用し、授業の効率化を図る。	B	【成果】 ●保護者連絡・学校運営の効率化 さくら連絡網やTeams・Formsの活用により、欠席連絡・行事連絡・アンケート集計等が効率化し、ペーパーレス化が進んだ。 ●授業の効率化と学習支援の充実 ロイロノートを中心に、資料配信・提出物回収・確認テストなどが効率化され、学習活動の資質向上につながった。また、スタディサプリの課題配信など、理解度に応じた学習支援も実施できた。 ●個別指導・進路指導の充実 提出物状況の共有による個別指導の強化や、就職・進路指導でのICT活用が進んだ。 ●教員業務の効率化 デジタル採点ソフトや生成AIの活用により、採点・授業準備の負担が軽減し、教員間の連携も円滑になった。 【課題】 ●ICTツールの活用の偏り スタディサプリの動画配信機能など、一部ツールは十分に活用されていない。 ●デジタル採点の高度化 デジタル採点ソフトは浸透しつつあるが、入学者選抜での活用に向けた研究が今後の課題である。
	(2)ICTを活用した教育活動の充実のための教職員・生徒の資質の向上及び環境整備 A:3 B:9 C:1	○学校DX推進チームを主体とした公開授業の実施や、円滑な学校運営に繋がる研修会を積極的に実施する。 ○校内全施設のネットワーク環境の充実を促進する。 ○教職員間で指導方法や学校DX研修等で得た知識や情報を積極的に共有し、資質の向上に努める。	B	【成果】 ・公開授業や研修内容の共有により、教職員の指導力とICT活用スキルが向上した。 ・生成AIを含むICT活用方法を共有し、授業準備等の効率化が進んだ。 ・プロジェクト整備などにより、デジタル教材を活用した授業が広がった。 【課題】 ・書道教室に校内Wi-Fiが整備されておらず、依然としてポケットWi-Fiを使用している。

令和7年度 京都府立東舞鶴高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
重点3 学校の強みを磨き、積極的・効果的にそれを発信する	(1)地域の関係機関・団体・個人との協働による一歩踏み込んだ地域創生活動の実施 A:4 B:9 C:0	○地域企業・団体と連携し、地域活性化の方策を協働的に探究する。 ○地域人材を活用し、地域産業や文化に触れさせる取組を実施する。 ○学校設定科目を中心に地域小学校及び保育園・こども園等と連携した取組を実施する。 ○生徒に対し地域ボランティアや地域活動の情報を積極的に発信し、地域と繋がる生徒を増加させる。	B B	【成果】 ●地域連携による探究活動の充実 ・市役所・企業・大学・文化施設等と連携し、マイガクⅡ・Ⅲを中心に実践的な探究活動を継続して実施できた。 ・農業体験や伝統文化体験、地元産業の学習など、地域資源を活用した体験的学習を展開し、生徒の地域理解を深めた。 ●地域人材・大学との協働による学びの広がり ・京都大学、京都府立大学、舞鶴引揚記念館、郷土資料館等と協働し、専門家の講話や実習を通して高度な学びを提供できた。 ・AIを用いた古文書翻刻等、先端的な学習にも取り組むことができた。 ●地域小学校・子どもの交流活動の推進 ・小学校への出張授業や児童クラブでの交流を実施し、生徒が企画・実践する学習機会を確保した。 ・ALTと生徒が協働して小学校で英語授業を行うなど、地域教育への貢献も進んだ。 ●地域ボランティア・地域活動への参加促進 ・ボランティア情報や地域イベントを積極的に周知し、生徒の地域活動への参加を促すことができた。 ・市のイベント（わが町トーク、ユースフォーラム等）への参加を通して、生徒の地域参画を広げた。 【課題】 ●連携機会の拡大と継続性の確保 ・多様な連携は実施できているが、活動を継続的に発展させるための体制作りが課題である。 ・連携先が特定の機関に集中する傾向にあり、より幅広い地域資源との協働が求められる。
	(2)生徒による情報発信や創造的活動・表現活動の機会の創出 A:0 B:5 C:8	○総合的な探究の時間（マイガクⅠ・Ⅱ・Ⅲ）の活動を積極的に発信する。 ○生徒が撮影・作成した動画等を積極的に配信し、校内の日常や生徒の活動、努力する姿や成長した姿を発信することで、本校の魅力の周知に努める。		C
重点4 積極的な特別支援教育及び生徒指導・教育相談を推進する	(1)配慮を要する生徒への個別指導・支援の充実 A:7 B:6 C:0	○教育相談会議、ケース会議、スクリーニング会議などを十分に機能させ、情報共有等を円滑に進め、学校全体で必要な指導・支援を進める。あわせて、全教職員の理解・知識を高めるために積極的に研修を実施する。 ○特別支援教育コーディネーターを中心に、教科主任会議を定期的実施し、生徒情報の共有と配慮を要する生徒に対する手立てや方策の共通認識を行う。	B B	【成果】 ・教育相談会議やスクリーニング会議を通じて、生徒情報を早期・継続的に共有でき、他部署との連携が強化された。 ・支援が必要な生徒への対応方針を明確にし、次年度の特別支援体制の準備も進んだ。 ・授業スライド配信やICT活用、学習会などにより、ユニバーサルデザインの授業と個別支援が充実した。 ・教科内、学年内での情報共有が進み、必要な配慮を教員間で共有して実践できた。 【課題】 ・情報共有の質を高め、全教職員が同じ理解で支援にあたる体制作りが必要。 ・支援方針をより具体化し、実践のばらつきを減らすためのフォロー体制が求められる。 ・特別支援教育やICT活用など、教職員のスキル向上に向けた継続的な研修が必要。 ・個別支援を継続するための教員負担軽減や体制整備が課題。
	(2)生徒の主体性を育てる取組（部活動・学校行事等）の充実 A:1 B:12 C:0	○ボランティア活動を促進し、社会貢献を実感させる。 ○生徒会活動をさらに充実させ、体育祭や文化祭等を主体的に企画運営させる。 ○学校行事及び探究活動やHR活動・部活動等において生徒主体の機会を設ける。 ○校外の各種イベントやコンテストに積極的に参加を促し、主体的活動を通して社会性や自己肯定感を育成する。		B
学校関係者評価委員会による評価	本年度の計画に基づき、ICT活用、探究活動、地域連携、生徒支援など多方面で大きな成果を上げた。授業改善や家庭学習支援にICTが効果的に活用され、個別支援体制の構築にも取り組まれたことは特に高く評価できる。探究活動や職業体験、大規模連携を通じて、生徒の主体性や進路意識が着実に育っている点も大きな強みである。また、SNSを中心とした広報は効果的であり、学校の魅力発信に寄与している。一方で、学習習慣の二極化、ICT活用のばらつき、探究活動や地域連携の継続性、主体的活動の広がりなど、今後の改善が期待される課題も明らかとなった。新聞報道などの外部メディアへの発信強化も求められる。総じて、教育活動の資質向上に向けて着実に前進しており、より持続可能で効果的な取組が進むことを期待する。			
次年度に向けた改善の方向性	次年度は、学校全体の体制強化を重点的に進めていく。まず、生徒一人ひとりを支える学校支援体制を更に整備し、情報共有や研修を通して、全教職員が共通理解のもとで支援にあたることのできる仕組みを確立する。また、学習デジタル教材の活用を学校全体に定着させ、基礎学力の向上と学習習慣の確立を図る。加えて、広報チームを立ち上げ、教職員と生徒が協働して学校の魅力を発信する体制を構築し、SNSに加えて新聞など外部メディアとの連携も強化する。これらの取組を柱として、より質の高い教育活動の実現を目指し、生徒個々の学力向上や人間力向上に取り組んでいく。			